

令和4年度第4回広島市社会教育委員会議 会議要旨

日時：令和5年3月23日（木）14：00～16：05

場所：市議会議事堂4階 第3委員会室

議題（公開・非公開の別）：

- (1) 議長・副議長の選任について（公開）
- (2) 令和5年度生涯学習・社会教育関連予算について（公開）
- (3) 令和5年度社会教育関係団体への補助金の交付について（公開）
- (4) 「広島市立中央図書館等再整備基本計画」の策定等について（公開）
- (5) その他（公開）

傍聴人：4名

出席者：(1) 委員 12名

砂橋委員、山川委員、平尾委員、岩元委員、松本委員、湯浅委員、住田委員、金谷委員、板倉委員、鈴木委員、竹澤委員、松田委員

(2) 事務局 5名

市民局次長、生涯学習課長、教育委員会育成部育成課長、非行防止・自立支援担当課長、放課後対策課長

【議事（会議要旨）】

(1) 議長・副議長の選任について

広島市社会教育委員会議規則に基づき、互選により議長に砂橋委員、副議長に山川委員が再任された。

(2) 令和5年度生涯学習・社会教育関連予算について

生涯学習課長が、資料1に基づき、令和5年度生涯学習・社会教育関連予算について、内容を説明した。

<意見、質疑等>

(砂橋委員)

生涯学習の推進について、全体で事業費が1億円ほど減少している要因はなにか。

(生涯学習課長)

主な増減としては、昨年度と比較して、中央図書館等の移転整備に係る予算額が約1億3,700万円減、福祉環境整備事業が今年度で完了することに伴い約1億2,400万円減、己斐公民館の移転建替に伴う予算額が約1億1,800万円増となっており、全体として約1億円の減となっている。

(板倉委員)

青少年育成の区分の「基町小学校区の教育活動充実（放課後子供教室）」について、学習指導員を配置するという事だったと思うが、間違いはないか。

(放課後対策課長)

内容としては、学習の支援や知育玩具を使った遊びなどを行っている。

(板倉委員)

学習支援の方を主にやるということだったと思うが、このような取組は現在基町小学校区だけで実施しているということか。

(放課後対策課長)

そうである。現在、基町小学校区のみで実施しており、県立広島大学の学生が児童に対し学習支援を行っている。

(板倉委員)

とてもよい取組だと思うので、他の地域でも実施してもらえるとよいと思う。

(山川委員)

予算は事業計画とセットだと思うが、それぞれの予算の事業計画については、違う場で議論されているのか。

また、事業計画について、少し長く関わらせていただいている中で、例えば、青少年育成の10（テン）オフ運動や電子メディアに関する講習会開催などは、表題そのものは長い間変わっていないように思うが、おそらく中身はどんどん変わってきているだろうと思っている。もしそれも含めて予算の議論をということであれば、全部でなくてもよいので、重点的なものは御説明いただけると有り難い。

事業計画との関係を教えていただきたい。

(育成課長)

電子メディアと子どもたちとの健全な関係づくりの推進に関して、山川委員より御質問をいただいたので、回答する。

事業計画に関して、10オフ運動については、平成27年から開始したものである。10時以降は使用をやめるというのは、メール等の送信をやめるということもあるが、近年はYouTubeの動画などの視聴をやめられないであるとか、オンラインで繋がることのできるゲームの通信をやめられないというように、やめられない原因が変わってきている。そこで、学校を通じて、こういった観点から子どもたちに注意を促してほしいと働きかけており、それは予算を増やさなくてもできるので、限られた予算の中で、プログラムを変えながら、学校に対してアプローチをしている。

併せて、電子メディアに関する講習会については、電子メディアインストラクターを養成して、学校の要請に応じて出前講座を開催したり、国や県と共催して、保護者や学校の先生を対象にしたセミナーを開催するものであり、あまり大幅なフルモデルチェンジはしないが、その時々SNSやインターネットの状況を見ながら、そういった知見を有する学識経験者を招いてセミナーを開催したりしている。

予算はあまり変わらないが、少しずつ時代に合わせた対応をしているところである。

(山川委員)

全ての事業計画について、この場で御説明いただくのは難しいと思うが、この会議の役割として、報告を伺うだけなのか、これについて意見を申し上げてよいのか、分からないところがある。意見を申し上げるとしたら、事業計画についての説明がないと難しいところがあるので、質問をした次第である。今すぐ対応いただくのは難しいかもしれないが、検討していただきたい。

(鈴木委員)

10 オフ運動について、私も YouTube で 10 オフ運動の動画などを拝聴している。非常に短い動画で綺麗にまとまっているが、この度予算がついたということであれば、動画のバックに雑音が入っている箇所があるので、撮り直るか編集していただくとよいのではないと思う。

小学校で子どもたちにその動画を見てもらって、内容について話をするのがあり、雑音が入っていると伝わりにくい部分があったので、可能であればお願いしたい。

(育成課長)

今鈴木委員がおっしゃった 30 秒程度の短い動画については、子どもたちに自ら正しい使用法を考えてもらいたいということで、募集をして出してもらったものである。したがって、雑音を遮断するということは技術的に難しいと思っている。

(金谷委員)

子ども会に関して、資料 1 の子ども会育成指導その他の予算には、資料 2 の子ども会関連の補助金は含まれているのかということが一つ目の質問である。

二つ目は、この額面だけを見ると、広島市の子ども会に対する支援は、結構手厚いのかなと心強く思ったところであるが、広島市の子ども会の現状と、広島市が子ども会に対して行っている支援は全国的に見てどの程度のものなのか、教えていただきたい。

(育成課長)

まず、この表の見方について、子ども会育成指導その他が 2, 753 万円というのは、そのすぐ下にある子ども会育成指導員活動事業の 1, 161 万 6, 000 円と、子ども会育成事業補助その他の 1, 591 万 4, 000 円の合計額となっている。

委員のおっしゃった子ども会等への補助金は、この 1, 591 万 4, 000 円の方に該当し、例年並みの予算を確保している。

ちなみに、子ども会の支援については、広島市子ども会連合会、各区の連合会、各学区の育成協議会に対して、それぞれ補助金を出している。

まず、学区の子ども会育成協議会の補助金については、1, 034 万 1, 000 円、広島市の子ども会連合会への補助金が 56 万円、各区の子ども会連合会への補助金が 345 万 6, 000 円となっている。

各政令市との比較については、申し訳ないが把握していない。

ただ一つ言えるのは、子ども会育成指導員活動事業は、他都市にない事業ではないかと考えている。

育成指導員については、どういう活動をしたらいいか悩んでいる子ども会に、活動内容に係る助言を

したり、他の地域団体、例えば各地区に青少年健全育成協議会や体育協会などがあるので、そういった団体と一緒に事業をする際の連絡調整役を担っていただいているところである。

こちらについては、各学区の子ども会育成協議会からの推薦に基づいて、本市が委嘱を行い、その上で、活動に応じて謝礼金をお支払いしているものである。

(金谷委員)

なかなか最近は大変なところが増えていると聞くので、子ども会の現状について教えてほしい。

(育成課長)

子ども会の現状について、年々加入率が落ちていると広島市子ども会連合会からは聞いており、加入率の促進策を考えているところである。各地域団体共通だと思われるが、担い手不足であったり、役員になる年、小学校5年生6年生になると、保護者が子どもを退会させたりすることもあり、役員の負担により加入率が下がっているのではないかと分析をしている。

ただ、正直に申しあげると、我々の方でも、ベストな解決策が見つかっていないという状況である。広島市の大きな流れとして、地域コミュニティの活性化に取り組んでいるので、そういった面で、他部局とも連携を図りながら対応していきたいと考えている。

(砂橋委員)

この子ども会育成指導員活動事業は、広島市独自の施策であると聞いており、他に類を見ないものである。また、子ども会育成指導員は市が委嘱をしているとのことであるが、全国のスポーツ推進員と同格の資格であるように聞いている。

来月の委嘱式には私も呼ばれており、レクリエーションの専門的な知見から研修を実施することになっている。社会教育委員の皆様も、おそらく様々ところで行政サイドと連携をされていると思うが、紹介させていただいた。

ここからは質問になるが、先ほど山川委員がおっしゃられた予算に対する事業計画ということで、青少年育成の二十歳を祝うつどいの今年度の予算が1,255万2,000円で、来年度の予算が843万4,000円なので、400万円ほど大きく減っている。予算額を400万円下げることにより、事業への影響がないのかという点が一点目の疑問である。

二点目に、「こども110番の家」事業について、今年度の予算が99万2,000円であるのに対して来年度の予算が31万5,000円ということで、三分の一になっている。

以上二点の予算の減について、御説明いただきたい。

(育成課長)

まず、二十歳の集い(旧成人祭)について、ここ3年の間では、新型コロナウイルス感染症の影響により、度重なる延期やオンラインによる開催への変更を余儀なくされてきた。

令和4年度予算が1,200万円になっているのは、通常であれば令和4年1月に開催するので、令和3年度の予算になるところ、令和5年に開催を延期したことにより、施設の借上げ料など旧年度の予算が使えないものについて、令和4年度の予算に積み増しをしたことによるものである。また、会場の設営等の業務については繰越しで対応したが、繰越しができなかった業務委託についても、積み増しを

行っている。

例年ベースの予算は、令和5年度予算の800万円程度である。

次に、「こども110番の家」事業の予算について、確かに令和4年度の予算額は99万9,000円であるが、事業に必要なステッカー、プレート等を3年に1回発注することとしており、令和4年度はその発注年に当たっているため、作成経費が積み増しになったものである。

そういう意味では、令和5年度の予算額は、例年並みと言える。

(3) 令和5年度社会教育関係団体への補助金の交付について

生涯学習課長が、資料2に基づき、令和5年度社会教育関係団体への補助金の交付について説明した。

<意見、質疑等>

(平尾委員)

予算額も去年並みで、団体についても去年と同様であると思われるが、新しい団体がここに提案していかうとした場合、間口はどのくらい開かれているのか。

また、補助金を交付する以上、事業の終了後に評価が必要なのではないかと思うが、どのように評価をして、どのように公開をされているのかということについて、御教示願いたい。

(育成課長)

制度分については、本市が制度を作り、それに基づいて補助金を交付してきているということで、事業の実施前には事業計画と収支予算書、事業の実施後には事業報告書と収支計算書を提出していただき、事業の実施状況等について確認をしているところである。

公募提案分については、広くホームページなどで広報はしておらず、今後そのようにしていくかは検討しなければならないと考えている。

公募提案分の補助金の交付については、団体よりいただいた提案の内容を評価して額を設定している。

また、結果の公表について、私の管轄している補助金に関してはホームページ等には掲載していない。事業の一部にのみ補助金を充てていることから、全てを公開できるかについては団体との調整が必要になるが、見たいという御要望があれば、団体の提案書や補助金に係る収支決算書等を見ていただくことは可能かと思われる。

(平尾委員)

これらの団体が非常に素晴らしい活動をされていることもよく存じ上げているが、何かあったときにどうしてこの団体だけが補助をもらえるのかということにならないよう、公平性と透明性はしっかりと担保していただくのがよいのではないかと思った次第である。

<育成課長、非行防止・自立支援担当課長、放課後対策課長は他の用務のため退席>

(4) 「広島市立中央図書館等再整備基本計画」の策定等について

生涯学習課長が、資料3及び4に基づき、「広島市立中央図書館等再整備基本計画」の策定及び中央図書館等再整備の平面レイアウトについて説明した。

<意見、質疑等>

(竹澤委員)

子どもたちのためにできることをすくい上げて、この場で反映させていただきたいと思っている。

(松田委員)

今回、特にレイアウトについてということだったが、図書館に青少年センター等が吸収されるという形になるとのことで、青少年センターとしての機能がどのように維持されていくのかという点が気になっている。これまでの各施設が、図書館の中でどのように機能なり独自の役割を發揮していくのか。

例えば、職員の配置について、青少年の自主活動をサポートする職員の力量などが非常に重要になってくると思うが、そういった機能は今後維持されることになるのか。

面積も旧施設群と比較すると少し減っていると思うが、それでも機能が維持される見込みがあるのか。

また、各階の役割や配置はあるが、各階ごとのコンセプトを設ける予定はあるのかについても、御教示願いたい。

(生涯学習課長)

青少年センターの機能については、育成課の所管にはなるが、分かる範囲で説明をさせていただく。

青少年センターの基本的な中枢機能は、こども文化科学館の中に、こども文化科学館とこども図書館と合わせて入ると整理されている。そうした中で、今後、青少年の自主的な活動については、こども文化科学館、公民館、中央図書館内の多目的交流空間等を活用し、幅広くいろいろな場所で使っていただけるよう機能を充足していくと聞いている。

また、各階のコンセプトについて、10階は一般の方に使っていただくエリア、9階はそこに来れば広島のこと分かる広島を知るエリア、8階は子どもと青少年のエリアとして位置付けている。全体のコンセプトとしては、「誰もが学び、憩う『平和文化』の情報拠点」であり、全てのフロアをそのコンセプトを基に整備していく。

(松田委員)

特に青少年センターについては一度訪問したことがあり、例えば演奏ができる防音設備を備えた部屋があり、すごく立派なステージもあった。それらが今回なくなっているようだが、市民意見募集の段階で残してほしいという意見があったのであれば、反映していくということが必要なのではないかと思う。市民意見募集では、そういった意見があったか。

(生涯学習課長)

青少年センターを所管する育成課が団体と話をしているということは聞いているが、その内容については承知していない。

舞台やホールについては、こども文化科学館にあるアポロホールを共用し、活用していくと聞いている。

また、防音室については、図書館の多目的室にもある程度の防音は施す予定で、今後整備されるこども文化科学館内の居室についてもそのように整備されるのではないかと考えているが、今後の検討になる。

(岩元委員)

書架の配置について、書架の高さはどのくらいか。

あまり死角が多いとよくない面があるので、どの程度の高さのものが並ぶのかお聞きしたい。

(生涯学習課長)

一般用の大人向けの書架については、基本的には6段程度を予定しており、およそ180センチメートル程度になるかと思う。

また、子ども向けの書架については、3段程度を予定している。

(岩元委員)

10階の配置を見るとサイレントルームの隣のところなど、書架がT字に配置されており、視界が遮られるのではないかと考えた。図書館は、死角が多いと防犯上良くない面があるので、その点が気になった。

(生涯学習課長)

いただいた御意見を踏まえて、今後の計画に生かしていきたい。

(板倉委員)

これまで何度かこの話をしてくれて、再整備に当たって、独特のものがほしいと思っている。

この図書館には他とは違ってこんなところがあると言えるようなポイントを作ってほしい。

こども図書館を現地に残していただいたことについては、大変有り難いと思っている。

中央図書館も、広島市を代表する文化施設なので、夢があって行ってみたい場所にしてほしい。屋上も使えるようだし、そういうところを活用して、皆が行きたくなるような施設をぜひ作っていただきたい。

これまで申し上げてきたことを真摯に受け止めて、いろいろと考えてくださったことはよく分かるので、ぜひ広島市の文化施設として先々まで想い続けられる場所を作ってほしい。

(生涯学習課長)

多くの方に来ていただき、使っていただける図書館にしたい。

(平尾委員)

図書館について、これまでずっと会議室で議論をしてきていて、公式にはまだ一度も現図書館、エール館とも現地に行っていないということは大きいのではないかと。先ほど、現地見学会が開

催されるとの話もあったが、社会教育委員会議においても、任意でも構わないので、皆で一緒に見に行っ
てはどうか。現在公開質問状でも出ているのでしっかりお答えいただきたいが、防火の面など現地に行
かないと見えない部分が非常に大きいと思う。そういう会議を一度開いていただきたい。

先週の中国新聞の記事にもあったとおり、エールエール A 館が全面改修されるということなので、
今行っても少し違うかもしれないというのはもちろん把握した上で、やはりその建物が建っているエ
リア全体や、実際に飲食店の並びを見て、本当に大丈夫かどうか、その場に身を置いて一緒に考えて空
気を味わいながら皆で検討できればと思っている。

社会教育委員会議は、社会教育を考える会なので、私たち市民が真摯に自分たちの町のことや社会課
題について考えるためにも、是非積極的に情報開示をしていただきながら、一緒に考えていければと思
っている。

(生涯学習課長)

今回のオープンハウス型説明会については、エールエール A 館の7階の一部をお借りし、平面レイ
アウトや再開後の広島駅周辺のイメージ図等を掲示して、現地で皆さんがイメージしやすい形で御
意見をいただくこととしている。

社会教育委員会議でそういった場を設けるかどうかについては、検討をさせていただきたい。

(砂橋委員)

委員の皆様も当然市民として説明会に参加される権利があるので、是非エールエール A 館に行って
実際に御覧になっていただきたい。

(住田委員)

私は今回が初めての参加になるので、これまでの経緯が分からないところで質問するが、今回の新し
い中央図書館の中に子どものエリアがあり、それとは別にこども図書館があるということで、その棲み
分けはどのようにされるのか。

先ほど板倉委員からもあったように、新しい図書館構想の特徴と、旧来の施設との兼ね合いといった
ところが特徴として出ればより分かりやすくなるのではないかと思う。

今のところ、その棲み分けがどうなっているのか分かりにくいので、御教示いただきたい。

(生涯学習課長)

こども図書館は、これまでの歴史の中で、専門館として担ってきた役割もあることから、そのまま現
地で、児童図書館の専門館として継続していく。

中央図書館については、これまでこども図書館が近隣にあった関係もあり、基本的には中高生以上を
対象とする図書しか置いていなかったが、再整備に当たっては、子どもから大人まで多世代が多目的で
使える図書館を目指すこととしており、そのような棲み分けを考えている。

どのような図書を置くかについては、今後図書館職員とも協議をしながら決めていきたい。

(湯浅委員)

以前にもお話したことにはなるが、広島文学資料室について、このように独立した空間が維持されて

いるというのは非常に良いことだと思う。

ただ、この空間だけで、広島ゆかりの文学者、作家の資料が十分に置けるのかという危惧を感じている。そこに来た人が将来に想いを馳せられるような資料室にしていきたい。

また、展示コーナーについて、資料3の25頁のピックアップのイメージで間違いないか。

広島市は、平和学習に関して非常に熱心に取り組んでいるが、今課題になっている平和学習資料を市民の方は見られていないと思う。戦後からずっと公平中立な資料ということで何度も改訂を重ねてきている。そういった資料を、学校関係者はもちろん広く市民の方にも見ていただき、学習していただく。また、他県、他市町村の教員等が広島を訪れた際に、こういう資料ならうちの児童・生徒にも使っていきたいというように学べる展示コーナーにしていきたい。

(生涯学習課長)

資料3の25頁のピックアップについては、他の自治体の博物館の展示コーナーの写真を参考に掲載したものであるが、実際どのような形で整備するかについては今後しっかり考えていきたい。いずれにしても、ただ本が並べてあるだけではなく、学べるような形にしていきたい。

(松本委員)

この間委員の先生方から出た様々な意見について、市は大変な中で検討していただいたことについて前向きに感謝申し上げたい。その中で、意見を反映しながら進めるということと、それから今まで「図書館」と呼んできたが、新しい図書館には、図書館ではない機能がたくさん盛り込まれているわけで、どういう呼び方がよいのだろうかと思うところがある。

図書館に映像文化ライブラリーや青少年センターも入ってくるという広島ならではのやり方で進めていくということなので、その辺りも市民に分かりやすい名前がないかなというのは一つ思うところである。

それから現地に行かないと分からないところは確かにあると思うが、今広島駅の駅ビルが再開発されているので、そことの連携も考えて、市の方でもしっかりとした案があるかと思うので、今日の資料を叩き台として、また変わっていくとは思いますが、是非良いものが作れたらと思う。社会教育委員としてもしっかりと状況を注視していきたい。

(金谷委員)

情報提供ありがとうございました。

運営体制に関して、公益財団法人広島市文化財団を指定管理者とするということは以前から決まっていたのか。最初の方ではまだ未定だったように思うが、今日の資料を拝見するとそうなっていて、それはそれで良かったと思う。

今後のお願いになるが、平尾委員が言われたように、現場が大切ということと併せて、図書館を作るのは人だと思っているので、スタッフの方々にやる気をもってやっていただけるような施設運営体制にするということがソフト面においては重要だと思う。

よって、今後の検討会議には、図書館の現場関係者の方、あるいは資料を拝見するとボランティアルームなるものも用意されているようなので、その利用者の代表として、現に今の図書館を使っている方々からは是非直接情報提供いただきたいと思うことが多々あったので、今後に関しては、そう

いう配慮をお願いしたい。

(生涯学習課長)

この場に図書館職員等と呼ぶことについては、検討したい。

(山川委員)

作るまでのプロセスが非常に大事ということで、今回オープンハウス型の説明会を開催するという点は良いことと思う。市民の意見も反映されることを期待している。

私からは、二点、検討の材料にさせていただきたいことがある。

一つは、8階から屋上までというのは、専有施設であれば繋ぎやすいと思うが、7階までは別のものが入っている商業施設において、8階から屋上までどのように繋いでいくのかというところに疑問がある。例えば民間のおりづるタワーでも苦勞して、緩やかに展示室から降りてくるような階をつなぐ工夫をしている。そういった工夫をしないと、せっかく全世代対応で、年齢や国籍等にかかわらず全ての人が使えるとしながらも分断される可能性はあると思う。縦をどうつなぐのかについて、御配慮をお願いしたい。

二点目は、松田委員の御発言にも関連するが、私も青少年センターがとても気になっている。広島市全体の社会教育施設の在り方として、青年層に対する施設が随分後退しているように感じている。似島少年自然の家については、対象を広げて地域活性化、三滝少年自然の家については廃止、それから、勤労青年ホームについても廃止という状況の中で、唯一広島らしい都市型の施設として残っていたのが青少年センターであるように思う。今回その機能が分化されていく中で、例えば子ども対象のこども図書館をベースとしたものに入ったときに、子ども対象だと乳幼児からになるが、今の青少年センターは主な対象が16歳から上は30歳から40歳くらいの方までいらっしゃるの、共存の場を作れるのかなと思うところはある。

青年層は人口流出が進んでおり、広島市としても何とかそこを留めたいはずなのに、図書館とセットにすることで少しまた後退をするような危惧がある。

(砂橋委員)

今は図書館移転で話が盛り上がっているが、私としては、青少年教育に関して強い危機感を持っている。理由は、他の委員方がおっしゃったとおり、似島は青少年を対象にした活動がなくなってきている、三滝は使えない、野外活動センターは地理的に不便であるということで、今後にかなり不安を感じている。

なぜかというと、我々は生涯学習をやっているわけだが、そういった場が無くなるということは、特定の施設に集中するということになってくる。本当にそれで青少年の育成になるのか、はっきり言って5年後にはどうしようかと考えている。集う、共に学ぶ、共に食べる、共に寝るということが人間交流を強くする要素であるが、広島市の中心部においてそれができる場所となると、民間施設は高額なので、近隣では江田島しかない。そういう状況が、政令指定都市として本当に良いのかと強く思っている。

今は図書館問題について議論をしているが、本当に広島市の生涯学習を考えたときに、そこについての議論が必要だというのが一つの思いである。

図書館問題については、平尾委員が言われたように現場を見るのが大事ということも良く分かるし、

金谷委員が言われたように作ってからのことを考えて仕掛けがいるということもしっかり考えていた
だきたい。

(5) その他

生涯学習課長が、令和5年度社会教育研究大会等の開催予定及び令和4年度優良公民館文部科学
大臣表彰の受賞について報告した。